

- 1 主題名 相手の立場に立って 2－（2）思いやり・親切
- 2 資料名 しらんぷりはできないよ（みんなで考える道徳 6年 日本標準）
- 3 ねらい 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を養う。

#### 4 主題設定の理由

##### （1）ねらいとする道徳的価値について

良好な人間関係を構築するためには、相手に対する思いやりが大切である。思いやりとは、相手の立場を十分考えた上で、自分の思いを相手に向けることである。高学年においては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある、どのように接することが相手のためになるのかをよく考えて対応することが求められる。しかし、それは、簡単なことではない。意見や考えが異なる相手に対してもその違いを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を行っていくためには、児童が様々な人々と出会い、触れ合いながら、支え合って物事をすすめていくような機会を増やす必要がある。また、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるような態度を育むことが重要である。

##### （2）児童の実態について

児童は、人数の多い場所では聞こえにくさが見られ、静かな場所で、正面に立ち、口の形を見せながらゆっくり話すことで意味を理解できる。また、理解を確認するため、文字や絵、手話等視覚的なコミュニケーションツールを活用している。発音はやや不明瞭な部分があるものの語尾ははっきりしており、場に応じた支援が必要ではあるが、他者と様々な形で触れ合うことが可能である。福祉施設への訪問や手話教室での交流を楽しめるものの、教室で一人休み時間に本を読むことも多く、あまり自分から他に働きかけようとならない。他とのかかわりが少ない中で、相手の立場を思いやる力を育成することが課題となっている。しかし、下の学年の児童に対しては親切な行動が見られるなど、思いやりの心が育ってきつつあると判断できる部分もある。

##### （3）資料について

本資料は、「耳がきこえません、こんなときはよろしく」と「車椅子です、こんなときはよろしく」の二部構成となっている。耳が不自由な人や車椅子の人に出会ったら、どんなことがしてあげられるかを、やさしく例示しており、また、年下の友人に語りかけるような口調で書かれてあるので親しみやすい資料となっている。引用されている資料は、昌文社出版から出されている『『あっ、たいへん！』子どもハンドブック』である。この本は、心と体の緊急事態に対応できる方法や、現代の子どもがしばしば直面するピンチについての的確なアドバイスなどが書かれている。本資料は児童にとって自分自身のことと重なる部分がある。人に積極的に声をかけて自分からかかわろうとしない児童に対して、これから同じ困り感をもっている人々に、自分からかかわろうとする気持ちを育てることができる資料と考えている。

## 5 指導にあたって

気付く段階では、「学校や家で何かいつもの生活で自分が困っていることはありますか。」「自分が何かしてもらって嬉しかったことはありますか。」と自分自身に関することを問いかける。これまでの自分を振り返り、関連した経験を想起させてから資料に入るようにする。

深める段階では、まず「耳がきこえません、こんなときはよろしく」を読み、内容について、自分自身が共感することはあったか問いかける。次に、「車椅子です、こんなときはよろしく」を読み、車椅子に乗っている人に対して、自分はどんなことをしてあげられるか考える。そして、深めの発問として「困っている人に出会ったら、どんなことをしてあげればいいかな。」と問いかけ、思いを広げさせていく。なかなか考えが出ない時はヒントとして絵カードを黒板に貼る。困るという場面がたくさんあることを知り、そういった時に自分はどんなことができるのか問う。

見つめる段階では、「困っている人に、これまでどうしてきたかな。また、自分はどんなことをしてあげられるかな。」と問いかけ、これまでの自分自身の動きに思いをめぐらすようにする。具体的な場면을提示することも考える。

あたためる段階では、実際にお母さんや先生、友達からの手紙を読む。手紙にはしてもらって嬉しかったことや助かったことを書いてもらう。自分自身のしたことが、誰かのために役立っていることに気付かせ、これから自信をもって他へ積極的にかかわり、自分のできることをしていこうという気持ちをもたせたい。

### 【研究とのかかわり】

#### ・「価値について考えるための深めの発問」について

「車椅子に乗っている人に対して、自分はどれをしようと思いましたか。」を中心発問とし、自分の中から出てくる思いや行動について考えさせる。そして、その考えを基に「困っている人に出会ったら、どんなことをしてあげればいいかな。」と深めの発問をし、困った人に対する自分の思いや行動について、しっかり見つめさせていく。

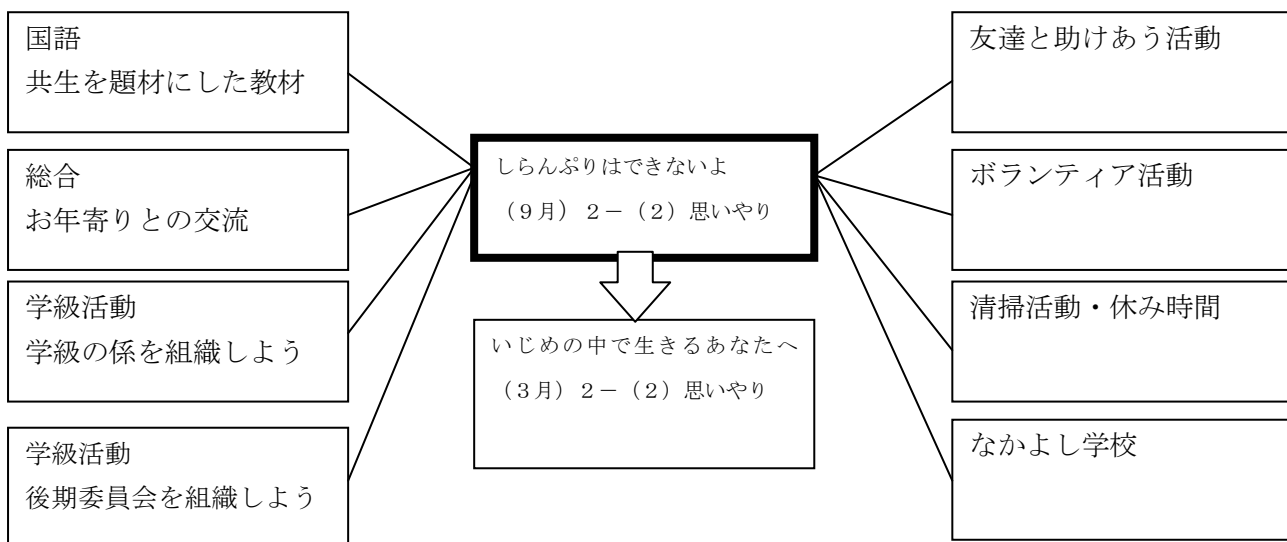
#### ・「児童同士の対話の充実」について

1対1のため、先生が児童役となり交流する。考えがなかなか出ない時は、参考となる考えを視覚的に示しなどし、具体的イメージをもたせながら、様々な考え方があることに気付かせたい。

#### ・「補充・深化・統合」について

本時は「統合」の時間として位置付ける。資料を読んで考えたり、車椅子に乗って体験したりする活動を通して、これまでの総合的な学習の時間や、ボランティア活動で感じとったことを関連づけながら、思いやりの心を育み、多様な感じ方や考え方があることに気付かせたい。

## 6 他の教育活動と本時の位置付け



## 7 資料分析

場面	登場人物の心の動き		◎中心発問 ○基本発問	○深めの発問
○「手話ができなくても大丈夫」のところ	・わかってあげる気持ちがあるかどうか大切。	不安 ↓	○「耳がきこえません、こんなときはよろしく」を読んで、自分も同じだと思ったことはありませんか。  ○「車椅子です、こんなときはよろしく」を読んで、大変だなと思ったことはありませんか。  ◎車椅子に乗っている人に対して、自分はどれをしようと思いましたか。	○困っている人に出会ったら、どんなことをしてあげればいいですか。
○「車内放送がきこえない」のところ	・筆談や口の動きで伝えることができる。	前向き 思いやり		
○『電話をかけて。』とたのまれたら」のところ	・電話できいたことは、ノートに書いて教えてあげればいい。	不安 心配 思いやり		
○「小さなニュースがうれしい」のところ	・どんな小さなニュースであっても筆談等で教えると喜ぶ。	喜び		
○「届かない、開けられない、そこでひとこと」のところ	・「開けましょうか。」「なにかとりましょうか。」のひとことが大事。	↓		
○「押すときに注意すること」のところ	・相手の思いを確かめながら押すことが大事。	思いやり 勇気		

## 8 本時の学習活動

(1) 準備 挿絵、ワークシート、車椅子、絵カード、お手紙

(2) 展開

過程	学習活動	<教師の働きかけ> ・予想される児童の考え 《中心発問》での考えの類型化 ▽□◇	◎評価 ・指導上の留意点
気付く 5分	1 自分自身の生活を振り返る。	<学校や家で、何か困るときがありますか。> ・放送が聞こえにくいときがあるよ。 ・何をすればいいかわからないときがある。  <困ったときに、何かしてもらって嬉しかったことはありますか。> ・友達が何をすればいいか教えてくれて嬉しかった。	・自分にも困っていることがあることに気付かせる。  ・他人にしてもらって嬉しいことがあることに気付かせる。

<p>深める 27分</p>	<p>2 資料「しらんぷりはできないよ」を読んで話し合う。</p>	<p>&lt;「耳がきこえません、こんなときはよろしく」を読んで、自分も同じだと思ったことはありますか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が起きたかわからなくて、とても不安になることが僕にもある。</li> <li>・まわりをキョロキョロして見てしまう時がある。</li> </ul> <p>&lt;「車椅子です、こんなときはよろしく」を読んで、大変だなと思ったことはありましたか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高いところは届かないんだ。</li> <li>・勝手に手助けしてはだめなんだな。</li> <li>・車椅子に乗って確かめてみよう。</li> <li>・普通なら届くところも届かないぞ。</li> <li>・障害物のあるところはすごく進みにくい。</li> </ul> <p><b>《車椅子に乗っている人に対して、自分はどれをしようと思いましたか。》</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>▽様子を見る。 □自分にできることはないか声をかける。 ◇車椅子の人に話しかけながら、自分にできることをする。</p> </div> <p><b>＜困っている人に出会ったら、どんなことをしてあげればいいですか。＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何に困っているか聞く。</li> <li>・自分にできることはないか考える。</li> <li>・相手の立場を考えて行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、語句の意味を説明しながら聞こえやすさに配慮して範読する。</li> <li>・共感を問うことで、資料と自分を重ね合わせる。</li> <li>・車椅子体験を通して世の中には困ることが色々あることに気付かせる。</li> <li>・自分がいろいろなことをしてあげたら、相手はどう思うか考えさせる。</li> <li>・困っている人の絵カードを準備しておく。</li> </ul> <p>◎誰に対しても「しらんぷりはできない」という心情をもち、どんな小さなことでもいいから行動しようとする意欲をもっている。(ワークシート・発言)</p>
<p>見つける 5分</p>	<p>3 自分のこれまでの言動を見つめる。</p>	<p>&lt;困っている人に、これまでどうしてきたかな。また、自分はどんなことをしてあげられるかな。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何もできなかったかもしれない。</li> <li>・声をかけて一緒に遊んだ。</li> <li>・どうしたのと声をかける。</li> </ul>	
<p>あたためる 8分</p>	<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>&lt;お母さんや友達、先生からのお手紙を読もう。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんは手伝いをしてくれたことが嬉しかったんだ。</li> <li>・先生は教室から虫を追い出してくれたことが嬉しかったんだな。</li> </ul> <p>&lt;今日の振り返りをしよう。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にも色々できることがある。相手の立場に立って考え、できることをやっていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙は、児童にしてもらって嬉しかったことを書いてもらう。</li> <li>・自分でも他人の役に立つことがあることに気付くようにする。</li> </ul>

思考の深まりの順に▽□◇  
(◇ 目指す児童の思い)  
太字：深めの発問